

人生を拓いてくれた「珠玉の言葉」1973年

1973.6.2 教行信証に聞くより

- (戒) 悪いことをやらない
 - (定) 心を静かにして
 - (慧) 知恵をみがく
- 自力無効、絶対他力

1973.9.26 詩集たいまつより

- ・ 燃えあがらなければ、石炭もただの黒い石である。爆発しなければ、ダイナマイトも甘い泥のかたまりである。立ち上がらなければ、人間はサルより低い。
- ・ サカナは、海中にいても店頭におかれてもサカナである。人間は死ねば「故人」あるいは「遺体」である。生きているから人間である。しんじつ生きていないなら、しんじつ人間ではあり得ない。
- ・ どのように生きるかにあせる人は多い。なんのために生きるかに悩む人は少ない。生きる目的がはっきりすれば、どのようにしてでも生きていけるのに。
- ・ 他人にあざむかれたくないなら、自分で自分をあざむくな
- ・ 自分のなめた苦しみを娘や息子になめさせたくないとき、人間はようやく人間らしくなる。
- ・ 歴史とは過去と未来の対話である、と形容できるのは、いうまでもなく過去は現在に結晶し、現在は未来をはらんでいるからである。現在と対話しないなら、過去を葬っているだけでなく未来も葬っている。

1973.9.28 詩集たいまつより

- ・ 文化の原意はいうまでもなく「耕す」である。生産することと生産するものへの正当な評価がしみ通った土壌にでない、文化は結実しない。文化を消費のあだ花にすり変える思考方式と生活様式は、すくいかたく不毛な墮落である。
- ・ 学問が学歴にすりかえられた所に、わが国の不幸の根が張っている
- ・ よくみのった実ほど、親茎から遠くへ飛ぶ。子供の親に対する反抗には、子どものみのりのしるしがある。シイナはいつまでも親茎に甘ったれている。
- ・ 腐ったおとなに寛大である社会は、清純な子どもに対して必ず残酷である。
- ・ 自分はボロを着ても、タクアンのしっぽでめしを食っても、子供は上の学校へやろう。参考書も文房具も十分に買って与えよう、という気持は美しい。けれども人間の幸福とか不幸とかいわれるものは、しょせん社会とのつながりできるものでありませんか。本気でわが子をしあわせにしたいなら、この子らに私たち親はどんな

社会をひきつごうとしているかを、一番熱心に考えて努力しないといけないのではありませんか。この子らの将来は大丈夫しあわせだ、と言い切れる状況でしょうか。自分のがまんしても子供の為に精一杯努力しているから、私は良い親だと自認して、もし社会の問題に背を向けるなら、一番大切なことについて一番卑怯な責任のがれをしていることになりませんか。良い親のつもりで、実は子供の未来をこわす役まわりをしていないかどうか、ここで私達親はめいめいの生活内容を十分点検してみようではありませんか。

1973.10.12

- ・ 大多数の人々は、物質的な繁栄も、良好な環境もふたつながら手にしたいと欲張ったことを考えているわけで、主観的には公害に反対しているつもりで実は公害を助長している。